

2020年度（2021年3月期）

# 第3四半期決算参考データ

2021年2月1日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。  
実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。

## 2020年度 第3四半期決算のハイライト

- コロナによる影響を一部で受けつつも、ニューノーマル対応を含むDX関連や5Gのビジネス機会を的確に捉え、トップラインは着実に成長
- 第3四半期決算（4月-12月）として、売上収益、売上総利益、受注高、受注残高が統合後最高

## 2020年度Q3累計（4月-12月）実績

（億円）

	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	前年同期比	増減率
売上収益	3,274	3,309	+35	+1.1%
売上総利益	787	808	+22	+2.7%
（売上総利益率）	(24.0%)	(24.4%)	(+0.4p)	-
その他の収益及び費用	▲545	▲579	▲34	+6.2%
営業利益	242	230	▲12	▲5.0%
（営業利益率）	(7.4%)	(6.9%)	(▲0.5p)	-
当社株主に帰属する 四半期純利益	162	159	▲3	▲1.8%
受注高	3,209	3,401	+192	+6.0%
受注残高	2,622	2,815	+194	+7.4%

### 2020年度Q3累計実績（前年同期比）

#### 【売上収益】

通信、官公庁、鉄道向けなどが増加

#### 【売上総利益】

増収及び売上総利益率の改善により増益

※「開発不採算」を除いた売上総利益率は、前年同期比+0.6p改善

#### 【その他の収益及び費用】

主に人件費の増加により、販売管理費が増加

#### 【営業利益】

売上総利益が増加したものの、その他の収益及び費用の増加により減益

#### 【当社株主に帰属する四半期純利益】

営業利益の減益により減益

#### 【受注高】

通信、社会インフラ、保険、地方自治体向けなどが増加

#### 【受注残高】

通信、社会インフラ、銀行向けなどが増加

## 事業グループ別実績

(億円)

	受注			売上			受注残		
	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	前年 同期比	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	前年 同期比	2019年度 Q3末	2020年度 Q3末	前年 同期比
エンタープライズ	837	761	▲76	791	772	▲19	647	647	+0
流通	273	292	+19	385	348	▲37	235	224	▲11
情報通信	1,101	1,358	+257	1,028	1,156	+128	855	1,009	+154
広域・社会 インフラ	438	488	+50	414	431	+17	500	530	+30
金融	169	157	▲12	168	175	+7	156	179	+24
その他	391	345	▲46	487	427	▲60	229	226	▲3
連結	3,209	3,401	+192	3,274	3,309	+35	2,622	2,815	+194

### 事業グループ別実績（前年同期比）

#### 【エンタープライズ】

受注、売上ともに前年のエネルギー向けインフラ案件の反動や、運輸、製造向けインフラ及びサービスなどが減少

#### 【流通】

受注は流通向け開発や、インフラなどが増加  
売上は流通向け開発や、カード向けインフラ及び開発などが減少

#### 【情報通信】

受注、売上ともに5G関連案件などが増加

#### 【広域・社会インフラ】

受注は社会インフラや保険、地方自治体向けインフラなどが増加  
売上は官公庁や鉄道向け開発及びインフラなどが増加

#### 【金融】

受注は銀行向け開発やインフラなどが減少  
売上は政府系金融機関向け開発やインフラなどが増加

#### 【その他】

受注は国内事業会社における運用の減少や、海外事業会社におけるインフラ案件の反動により減少  
売上は国内外事業会社におけるサービスやインフラなどが減少

## ビジネスモデル別実績

(億円)

	受注			売上			受注残		
	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	前年 同期比	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	前年 同期比	2019年度 Q3末	2020年度 Q3末	前年 同期比
サービス	1,116 (34.8%)	1,107 (32.5%)	▲9	1,420 (43.4%)	1,427 (43.1%)	+7	1,600 (61.0%)	1,652 (58.7%)	+52
開発・SI	762 (23.7%)	829 (24.4%)	+67	740 (22.6%)	712 (21.5%)	▲28	341 (13.0%)	390 (13.8%)	+50
製品	1,331 (41.5%)	1,465 (43.1%)	+134	1,114 (34.0%)	1,170 (35.4%)	+56	681 (26.0%)	773 (27.5%)	+92
連結	3,209	3,401	+192	3,274	3,309	+35	2,622	2,815	+194

※表のカッコ内は、構成比率

## ビジネスモデル別実績（前年同期比）

### 【サービス】

受注は運輸向けや、海外事業会社におけるサービスなどが減少  
売上はエネルギー向け運用・保守などが増加

### 【開発・SI】

受注は通信向け5G関連案件や、鉄道向け開発などが増加  
売上は流通向け開発などが減少

### 【製品】

受注は5G関連案件や、通信、社会インフラ向けインフラなどが増加  
売上は5G関連案件や、通信、官公庁向けインフラなどが増加

## その他の収益及び費用 内訳

(億円)

	2019年度 Q3累計	2020年度 Q3累計	前年 同期比
人件費	▲318	▲352	▲33
委託社員受入費	▲47	▲56	▲9
減価償却費	▲45	▲50	▲5
その他	▲139	▲125	+13
販売費及び一般管理費計	▲549	▲583	▲34
その他の収益	5	7	+2
その他の費用	▲1	▲2	▲1
その他の収益及び費用	▲545	▲579	▲34

### その他の収益及び費用内訳 (前年同期比)

#### 【人件費】

- ・社員数の増加、昇給、業績連動賞与による増加
- ・開発案件の一時的な中断・延期（コロナウイルス感染症の影響）や、新規案件獲得に向けたプリセールス活動の増加などによる原価への振替額の減少

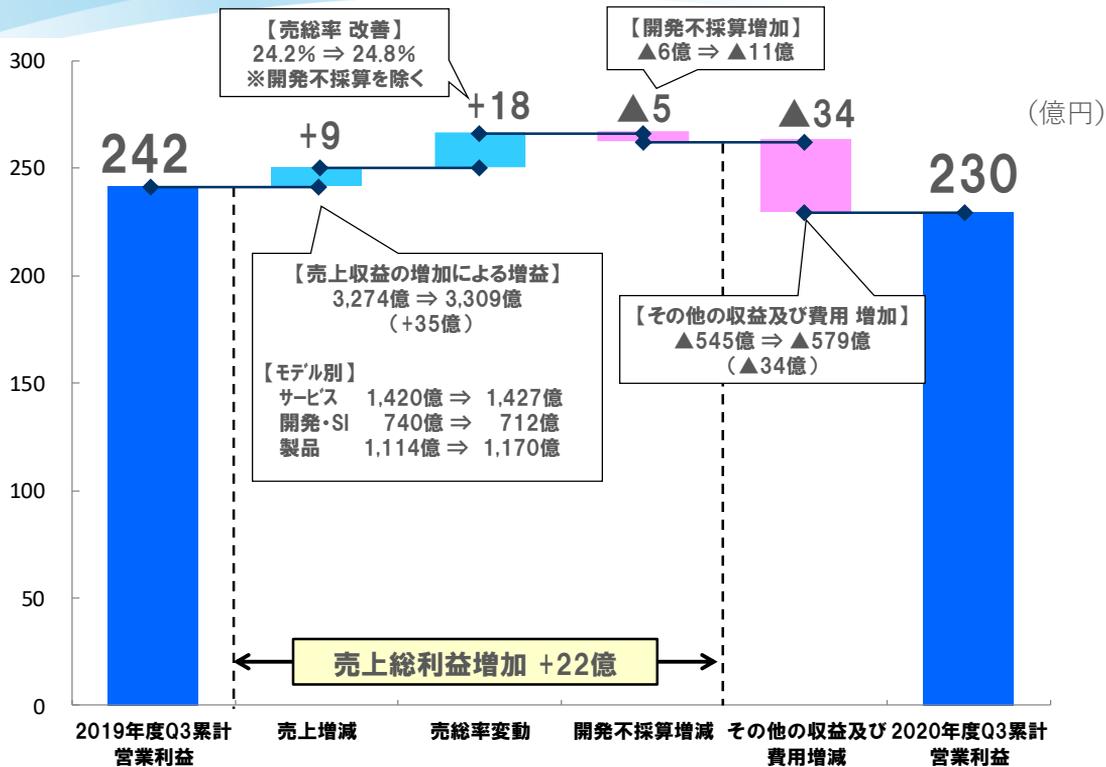
#### 【委託社員受入費】

- ・人員数の増加などによる増加

#### 【その他】

- ・出張の減少による旅費、海外旅費の減少、交際費の減少など

# 営業利益増減要因 (前年同期比)



(参考) 2020年度Q3 (10-12月) 実績

(億円)

	2019年度 Q3	2020年度 Q3	前年同期比	増減率
売上収益	1,170	1,158	▲11	▲1.0%
売上総利益	285	295	+10	+3.4%
(売上総利益率)	(24.3%)	(25.4%)	(+1.1p)	-
その他の収益及び費用	▲190	▲198	▲8	+4.4%
営業利益	95	96	+1	+1.5%
(営業利益率)	(8.1%)	(8.3%)	(+0.2p)	-
当社株主に帰属する 四半期純利益	63	66	+4	+5.9%
受注高	1,102	1,240	+138	+12.6%
受注残高	2,622	2,815	+194	+7.4%

**2020年度Q3(10-12月)実績 (前年同期比)**

【売上収益】

製造、エネルギー向け、及び海外事業会社などが減少

【売上総利益】

売上総利益率の改善により増益

※「開発不採算」を除いた売上総利益率は、前年同期比+1.0p改善

【その他の収益及び費用】

主に人件費の増加により、販売管理費が増加

【営業利益】

売上総利益の増益により増益

【当社株主に帰属する四半期純利益】

営業利益の増益や、持分法による投資利益の増加などにより増益

【受注高】

通信、流通、鉄道向けなどが増加

(参考) 2020年度Q3 (10-12月)  
事業グループ別/ビジネスモデル別実績

(億円)

		受注			売上		
		2019年度 Q3	2020年度 Q3	前年 同期比	2019年度 Q3	2020年度 Q3	前年 同期比
事業 グループ 別	エンター プライズ	281	268	▲13	285	265	▲20
	流通	93	101	+9	127	119	▲9
	情報通信	377	556	+179	369	432	+63
	広域・社会 インフラ	130	140	+11	145	141	▲4
	金融	66	45	▲21	58	61	+3
	その他	155	129	▲26	186	140	▲45
	連結	1,102	1,240	+138	1,170	1,158	▲11
ビジネス モデル 別	サービス	373	378	+5	497	488	▲9
	開発・SI	244	307	+63	269	265	▲4
	製品	484	555	+71	404	405	+1
	連結	1,102	1,240	+138	1,170	1,158	▲11

**事業グループ別実績 (前年同期比)**

【エンタープライズ】

受注は運輸向けサービス及びエネルギー向けインフラなどが減少  
売上は製造、エネルギー向けインフラなどが減少

【流通】

受注は流通向け開発などが増加、売上はカード向け開発などが減少

【情報通信】

受注、売上ともに5G関連案件などが増加

【広域・社会インフラ】

受注は鉄道向け開発や、建設向けサービスが増加  
売上はほぼ横ばい

【金融】

受注は政府系金融機関向け開発などが減少  
売上はほぼ横ばい

【その他】

受注は海外事業会社におけるインフラ案件の反動などで減少  
売上は国内外事業会社におけるサービスやインフラなどが減少

**ビジネスモデル別実績 (前年同期比)**

【サービス】

受注は通信向けサービスなどが増加、売上は海外事業会社におけるサービスなどが減少

【開発・SI】

受注は鉄道向け開発や通信向けインフラ構築などが増加  
売上は流通向け開発などが減少

【製品】

受注は5G関連案件などが増加  
売上はほぼ横ばい

(参考) 2020年度Q3 (10-12月)  
その他の収益及び費用 内訳

(億円)

	2019年度 Q3	2020年度 Q3	前年 同期比
人 件 費	▲112	▲123	▲11
委 託 社 員 受 入 費	▲15	▲17	▲2
減 価 償 却 費	▲14	▲17	▲2
そ の 他	▲49	▲43	+6
販売費及び一般管理費 合 計	▲190	▲199	▲9
そ の 他 の 収 益	2	2	+0
そ の 他 の 費 用	▲1	▲1	+0
その他の収益及び費用	▲190	▲198	▲8

その他の収益及び費用内訳 (前年同期比)

【人件費】

- ・社員数の増加、昇給、業績連動賞与による増加
- ・開発案件の一時的な中断・延期（コロナウイルス感染症の影響）や、新規案件獲得に向けたプリセールス活動の増加などによる原価への振替額の減少

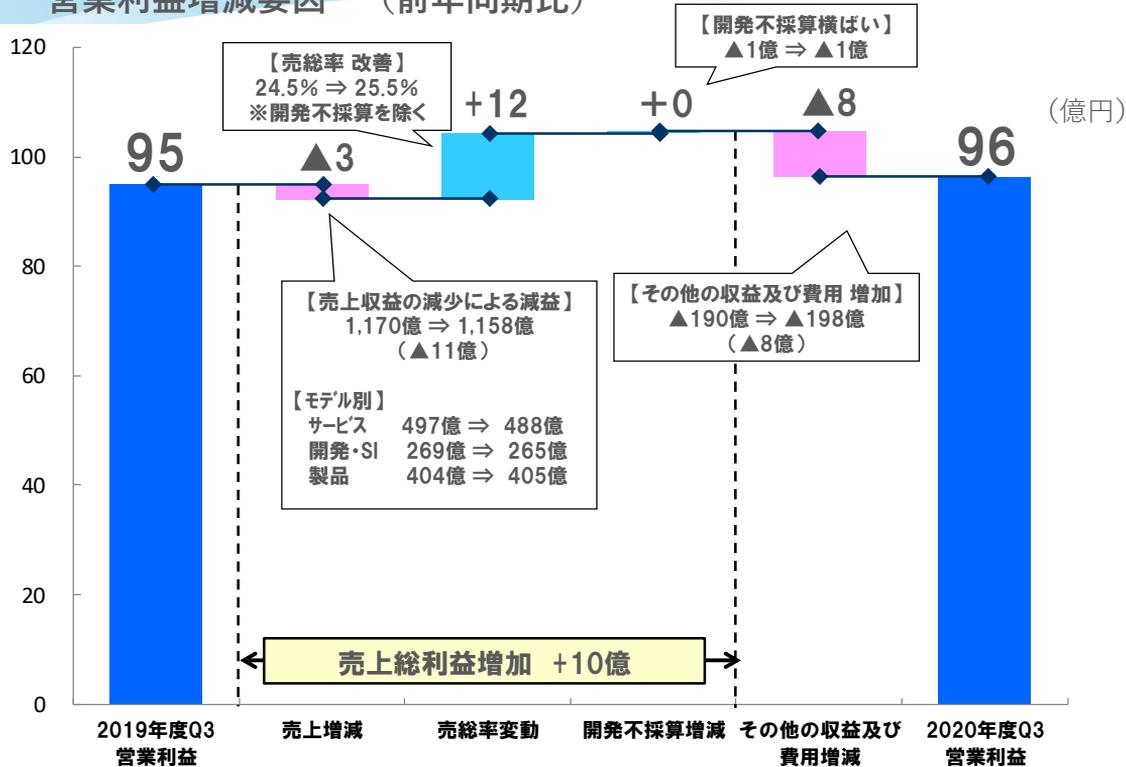
【委託社員受入費】

- ・人員数の増加などによる増加

【その他】

- ・出張の減少による旅費、海外旅費の減少、交際費の減少など

(参考) 2020年度Q3 (10-12月)  
 営業利益増減要因 (前年同期比)



## 新型コロナウイルス感染症に関する影響について（現状認識）

上期

下期

+

- ・テレワーク需要
- ・デジタル化の加速
- ・経費圧縮

同左

-

- ・IT投資の見直し・遅れ
- ・一部製品の供給に遅れ
- ・営業活動の制約

→ 一部で想定より早い収束

- ・国内外の一部で左記影響の長期化（収束との二極化）

「答えは、CTC。」